

がん化学療法科 ニュースレター

ほほえみ 第8号



ほほえみ読者の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

例年、この季節はさんさ踊りの練習のシーズンです。市内の各所で、太鼓、笛の音が聞こえますし、本番近くでは、踊りの練習も見かけます。当院も例年参加しておりますが、個人的にはここ何年かは、笛で出ていました。笛は見た目には、太鼓みたいに重くもないので楽そうですが、笛を吹きながら踊るといのは、呼吸機能の限界に挑戦をしているようで、実際は中々大変なものです。

それはさておき、皆様もさんさの音色が聞こえてくると、盛岡の夏を感じられる方も多いのではないのでしょうか。

今年は、東日本大震災もあり、さんさ踊りも自粛かなとも思われましたが、復興を願いつつ、スカッと踊るのも良いかもしれません。

身の回りで、ちょっと良いことを起こすには？

日常生活には、様々な局面があつて、好ましかったり、そうでなかったりします。では、何か良いことを起こそうとしたら、何を心がければ良いのでしょうか。

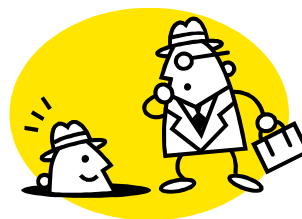
先日、組織論再入門という本で、キャリア論に関して読んでいたのですが、クランボルツという方の理論が紹介されていました。彼が言うには、「人生の重要なことは、ほとんど偶然で決まる。だから、まず偶然を受け入れよ。」とのことでした。

しかし、ただ偶然を待っていても、そんなに良い偶然は起きないですよ。そこで、計画された偶発性(Planned Happenstance)ということが重要になってきます。これは、何らかの自分にとって望ましいことを起こそうと思ったら、漠然としていても良いので、良い偶然が起こりそうな行動を起こすということです。例えば、園芸に興味を持っていたら、園芸店などに出かけて、お店の人や、お客さんに声を掛けてみることです。

偶然を必然にする方法も指南されています。

- ① 好奇心 いろいろな事柄に広く好奇心を持つ
- ② こだわり 信念は大事にする
- ③ 柔軟性 ストライクゾーンを広くする
- ④ 楽観性 気楽に考えましょう
- ⑤ リスクを取る 引っ込み思案すぎるとはいけません

以上の5つを実践すると良いそうです。



元々は、どうやって自分の望むキャリアを得るかというテーマですが、思い返すと、私が、腫瘍内科を専門領域に選んだときも、幾つもの偶然が重なっていたように思います。趣味とかにもクランボルツ理論は適応できそうですし、もっと押し広げて考えれば、日常生活全般にも応用できそうだと思います。

ほほえみ読者の方も、趣味でも、旅行でも、何かちょっとしたことでも、興味を持ったことに、積極的に関わってみてください。そこで何かが変わるかも……。

膵癌に対する、エルロチニブの承認に関して

切除不能膵癌に対する、ゲムシタピン(商品名: ジェムザール)への併用で、エルロチニブ(商品名: タルセバ)が承認されました。この薬剤は、上皮増殖因子(EGFR)という、がん細胞表面にある、増殖シグナルの起点になるタンパク質を阻害することによって、細胞増殖をコントロールするものです。単独での使用は行われず、ゲムシタピンとの併用でのみ、使用が承認されています。間質性肺炎の出現がやや多く、適切な対応が必要となる場合があります。国内では、当面使用を許可される施設が限定されます。また、副作用を早く検出するため、定期的な胸部X線撮影など、使用のプロセスも管理が必要となっています。

当院では使用可能となりますが、詳細に関しては、担当医からお聞きください。



エルロチニブ(タルセバ) 内服薬です。

認定データマネージャーになりました



当科の担当の医療クラークである斉藤書子さんが、日本癌治療学会・認定データマネージャーになりました。所定の研修や、レポート作成などを行い、資格申請を行っておりましたが、先日、認定証が届きました。今後とも、宜しくお願い致します。

私の書棚から 「生命40億年全史」

医学という分野は、大学入試の時には理系に分類されていますが、文系的な要素も強く、個人的には文系6割、理系4割のような領域だと思っています。読書は趣味というよりは習慣かもしれません。今月は、私の目の前の本棚で目に付いた本のご紹介をしたいと思います。

原題は'Life'という題名で、著者はリチャード・フォーティ氏です。題名の如く、海の誕生以降の生命の進化を時系列でたどったものです。印象的な記述が多く、その時代にタイムマシンで降り立ったようです。35億年前から27億年前あたりまで(始生代から先カンブリア末あたりまでに相当)は単細胞生物の生物群集の時代なのですが、ストロマトライトというバクテリアと土の堆積したものが、年間0.3mmずつ積み重ねられて、悠久の時が経過し、海辺のあちこちに数十メートルから100mの高さの小山を作っていた時代でした。静かな海辺に聳える、何億年も変わらないストロマトライトの世界・・・想像するだけでも物凄くありませんか(加藤)。



オーストラリア シャークベイ(世界遺産)の現在に残るストロマトライト
ウィキペディアから引用

MEMO

7月のがん化学療法科の予定

7月8日 柴田教授外来
7月18日 海の日
7月22日 柴田教授外来



さんさ踊り 県立中央病院は8月2日参加予定